

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22 年 2 月 26 日

【評価実施概要】

事業所番号	0174100511		
法人名	有限会社 ヤマギシ企画		
事業所名	グループホーム入江		
所在地	〒085-0008 釧路市入江町8番29号 (電話) 0154-23-8133		
評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成22年2月19日	評価確定日	平成22年3月2日

【情報提供票より】 (22年1月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 10 月 24日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人 人
職員数	19人	常勤	13人 非常勤 6人 常勤換算 15人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての 全 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	13,650~18,900 円
敷 金	有 ()	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (82,800 円)	無	有 / 無
食材料費	朝食	350 円	昼食 380 円
	夕食	430 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成22年1月30日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	3名	要介護2	6名		
要介護3	2名	要介護4	5名		
要介護5	2名	要支援2			
年齢	平均 83歳	最低	69歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	釧路脳神経外科・さい内科クリニック・島津歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は産業地域の中に位置し、事務所や会社が多く、すぐ前は道路になっている。道路は交通量が多いが、ホームの中に車の音は聞こえない構造になっている。管理者始め職員は認知症の特性をよく理解し、利用者1人ひとりを大切にしている。管理者は職員を育てることに努力をし、研修等に積極的に参加を促している。職員も利用者の行動を見守りながら、共に過ごす事を大事にしている。小学校の学芸会や運動会に参加し、地域住民と交流し、防災訓練や夏祭りには参加を得ながら交流を深めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回評価で改善課題なし
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	全職員で自己評価に取り組み、職員1人ひとりの気付き等が確認され、よりよいホームを目指している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	構成メンバーの出席だけでなく、歯科医師・歯科衛生士・保健所職員等をまねき、講話をしてもらい、そこでの意見をサービス向上に活かしている。防災訓練にも参加している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	家族の意見や苦情は家族会や運営推進会議で、家族が意見を言いやすい雰囲気作りをしている。またホーム訪問時を利用して、お話を聞くなどしている。意見があれば職員会議の中で話し合い柔軟に対応し結果は家族に報告している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	利用者や職員は町内会行事に参加している。地域住民はホーム行事にボランティアとして参加し、カラオケを担当してもらい防災訓練にも参加をしてもらおう等、産業地域の中でホームは地域の住民と交流し、連携に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者さんと地域の方が顔なじみとなるような関係を築き」を入れた理念を全職員でつくり上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は理念を共有し、理念に基づいた実践に向けて、フロア会議で振りかえりながら、日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会活動には地域の一員として、隔月のごみ拾いやレクリエーション等に参加したり、散歩の途中で地域の人と挨拶を交わしたり、ホーム夏祭りには参加をしてもらう等、交流をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は評価の意義を理解し、職員全員で取り組み、それぞれの職員の気付きを確認しながら、より良いホームを目指し、具体的な改善にも取り組んできている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1度開催しホームの取り組みの報告に終わるのではなく、構成メンバーの外に歯科衛生士、歯科医師や保健所職員等を招き講話をしてもらったり、そこでの意見をサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホーム長が窓口になり、事あるごとに行政と行き来をし、助言や情報をもらい、サービス向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所からの便りを毎月発行し、領収書と共に添付している。日常生活の様子や事業所行事等を定期的に知らせている。、健康状態に変化があれば随時電話で連絡をとっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時や家族会・運営推進会議等で意見を言い易い雰囲気作りに努めている。利用時に重要事項説明書で外部の相談窓口の説明をしている。訪問時の会話の中で意見があれば柔軟に対応し、結果を家族に伝えている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動による離職が若干あるが、それぞれのユニットの職員の応援で対応し、利用者のダメージを防ぐ配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は職員を育成する事に力を入れている。管理者も職員が研修に参加出来るように環境を整えている。研修後は報告書を作成し、会議で発表して、情報を共有し、働きながらトレーニングをしていくことを進めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修会や職員交換研修会を相互に行っている。懇親会等にも積極的に参加し、交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族からの相談を受けた後、本人・家族のホーム見学をしてもらい、時には家庭訪問を行いながら本人や家族と相談し、馴染めるように工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	女性利用者からは主婦の先輩として、料理（煮豆・赤飯・料理味付け等）を教えてもらっている。一緒に過ごす中で利用者と支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
表情					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	介護計画の中で本人の希望や意向を把握し、体調の変化、表情や行動の動きを見ながら柔軟に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	フロア会議やカンファレンスで担当者が詳細な記録をし、職員全員で話し合い、本人と家族の意見・希望を入れながら、介護支援専門員が計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3カ月に1度、援助計画の効果や達成度について分析を行いながら見直しを行っている。介護計画期間に応じて見直しを行うとともに、利用者の健康状況に変化があれば、現状に即した計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携をとり看護師が月2回事業所を訪問し、健康管理を行っている。通院送迎を行い、温泉、動物園、外食等、柔軟な支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者が入居前のかかりつけ医に通院し、2カ所の病院から定期的に訪問診療医師が来ている。医師と関係を築き、適切な医療を受けられるように支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化に向けた対応については事業所の指針があり、家族と同意書を交わしている。往診医を確保し、全員で理解し情報を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	1人ひとりに対して、言葉かけや対応にプライバシーを損ねるようなことはなく、記録は引き出しに保管し、個人情報の廃棄書類等はシュレッターにかける等、取り扱いに注意をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活スペースを大切にしながら、散歩や買い物などの外出支援をしている。居室にいたい人が孤立しないように、その人らしく過せるよう希望に沿った支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物から食事の準備、後片付け、テーブル拭きまで、できる人は職員と一緒にいき、食器も陶器を使用し、目で楽しむ事も採り入れている。全介助の人にも盛りつけ等に配慮して、楽しく食事をしてもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回は入浴をしている。全介助の人には2人介助で入浴を楽しめるように支援し、同性介助の希望があれば対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	お花の好きな人はお花を育てたり、食事の準備やおしぼりの用意、テーブル拭き等、利用者の力を活かした役割をしている。気晴らしや楽しみ事として、小物作りやぬりえ、風船バレー、カラオケ、ジグソーパズル等をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物に行きたい人は職員と一緒にいき、天気が良ければ近くの公園におやつ持参で出かけたり、温泉・動物園・外食等、出来るだけ戸外に出かけるように支援をしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は鍵を掛けることの弊害を理解している、日々鍵をかけないケアに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回災害訓練を行っている。消火訓練や避難誘導、心肺蘇生等を行っている。緊急連絡網は見やすい所に掲示している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分は記録をし、管理している。バランスの良い食事を心がけて、水分は1日に1200ccから1500ccを確保している。午前中に水分を多く取るようにし、午後からは控える等、健康状態を見ながら支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の鉢植え、写真、作品等を飾り、季節に応じて変えている。加湿器も設置され、音や光にも配慮している。生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に仏壇や冷蔵庫を持ち込んだり、家族の写真や使い慣れた装飾品を飾る等、本人本位の支援をし、居心地よく過ごせるように工夫をしている。		

※  は、重点項目。